



プロジェクト報告—ARCルワンダ子ども支援基金

ARCは2002年以来、ジェノサイドによる戦災孤児やエイズ孤児が小学校に通えるように支援する「ルワンダ子ども支援基金」プロジェクト。このプロジェクトの協力団体は現地NGO ギシンバ・メモリアル・センター(Gisimba Memorial Center:GMC)です。東洋大学国際地域学部国際地域学科4年の鈴木翔子さんが、ルワンダの孤児たちをめぐる現状について、GMCのソーシャルワーカー、イルデフォンス・ニヨンガナ氏(Mr. Ildephonos Niyongana)にお話を伺いました。



イルデフォンス氏へのインタビュー

Q. 現在のGMCの主なドナー(資金援助団体)を教えてください。

A. 以下の通りです。

1. Kindership Belgium
2. Global Relief and Development Partners
3. Music for Life or African Children's Choir
4. AEGIS Trust London
5. Saint Egidio
6. ARC Japan
7. Waterloo
8. Peace Family Foundation
9. Point Foundation →ソーラー発電の設置プロジェクト
10. KOICA →バイオガス活用プロジェクト実施予定も失敗

とが、出資金の確保につながり、より良いサービスを提供することにつながると考えています。また、専門家によるテクニカルな面でのサポートをしていただきたいです。



Q. 今、なにか困っていることはありますか。

A. 経営にかかわるスタッフが少ないことです。主に5人のスタッフでやりくりをしています。1人1人のキャパシティがいっぱいいっぱいです。かといって、スタッフを増やすほど予算的な余裕がないので、仕方がありません(今、GMCは赤字経営らしいです)。

Q. 先進国にいる私たちが、何かできることがありますか。

A. 今は、とくにプロジェクトを行っていく資金がたりないので、少しでも多くの方に私たちの活動を知っていただき、共感していただきたいと感じています。私たちの活動を知っていただくというこ

Q. 今、何かプロジェクトを行っていますか。

また、今後何かプロジェクトを行う予定ですか。

A. 先日、GMCの5キロ先に畑を購入し、子供たちに農業を教えることができるようになりました。

また、まだ施行の段階ではありませんが、孤児に里親の家に一度ホームステイさせるプロジェクトを企画しています。これは、孤児が里親の家族になじめないというケースが多いためです。原因は、コミュニケーションをとる経験が足りていないこと等から、ライフスキルが欠如していることにあります。孤児には、普通の家族の一員として、与えた生活費で買い物させ、家族とコミュニケーションを図ってもらいます。多くの生徒の何らかの問題が出てくると思うので、反省をさせ、本当に里親の家庭と一緒に暮らすことになったときに、反省を生かし、うまく生活できるようにします。こういったステップを経ることで、里親家族とのトラブルが減ると思います。このプロジェクトは予算があればすぐにでも実行したいと思って

いるのですが、なにしろ予算不足のため、今は施行できずにいます。

Q. 家族と一緒に暮らしている子供たちと、孤児院で暮らす子供たちには態度などで違いがあるのですか。

A. 全員ではないですが、何人かほとんどしゃべらない様な子や、腕を組んでじっとしている子もいますし、逆に叫んでいたり、不自然に大声で笑ったりするような子もいます。また、トラウマを抱えた子が多く、学校が併設されているにもかかわらず、不登校になってしまう子もいます。



Q. やはりそういう子は、ジェノサイドを経験した子が多いのですか。

A. 今は、1994年から18年経っていますし、直接そういった被害に遭いトラウマを抱えている生徒は成人している年齢になってきました。しかし、虐殺の時期に置き去りにされていた子や、虐殺の時期に母親がHIV/AIDSに感染し、亡くしてしまった生徒もいます。また、成人して、ギシンバメモリアルに戻ってきてスタッフとして働いている元孤児もいます。

Q. ルワンダの政策で孤児院を撤廃するというものが発表されましたが、GMCもなくなってしまうのですか？

A. すぐなくなるということはありません。できないでしょう。孤児が里親と問題なく暮らすようになるまでは、時間がかかります。多くの子供たちは、この孤児院を離れたくないと思っています。孤児が里親家族と暮らせるようになるまでには、さまざまなステップを重ねることが必要です。そのためには、孤児院の役割はたくさんあると考えています。

GMCの生徒2人（高校3年生）へのインタビュー

Q. GMCの生活は楽しいですか。

A. とても楽しいです。

Q. 二人は、将来の夢はありますか。

A. Statistic Manager になることです。 / Language Manager になりたいです。



Q. 大学受験の勉強をしているとのことですが、不安はありますか。

A. 不安はありますが、がんばります。専攻分野の1教科しかないので、今はそれに集中して勉強をしています。

Q. 今、GMCにいて何か困っていることはありますか？

A. 本当に困っている、ということは特にありません。スタッフの方はベストを尽くしてらっしゃると思います。あえて言うならば、先生の中に、英語を話す先生と、フランス語を話す先生がいるので、頭の中が混乱することがあります。これは、ルワンダの公用語が1994年までフランス語だったためです。年配の先生は、フランス語しか話せない人が多いです。あと、実験室の実験につかう素材があまりないということです。できるなら、もう少しバリエーションが増やしてほしいです。

アフリカ平和再建委員会

Africa Reconciliation Committee: ARC-JAPAN

〒160-0004 東京都新宿区四谷4-6-1 四谷サンハイツ511

TEL/Fax : 03-3351-0892

E-mail : headoffice@arc-japan.org ホームページ <http://www.arc-japan.org>



ツイッター始めました！アフリカの紛争と平和に関するイベントや情報の発信をしています！

@ArcJapanNews どんどんフォローしてください！



フェイスブック始めました！日ごろのARCの活動内容や、アフリカに関連するイベントや情報の発信をしています！

【ARCページ】 <http://www.facebook.com/ARCJAPAN> このページに「いいね!」、「シェア」をお願いします！